

平成 31 年度 授業計画(シラバス)

| | | | |
|--------------|--|-------------------------------|--------|
| 開講時期 | 1年次前期 | 科目区分 | 専門科目 |
| 学科名 | 公務員専攻科 | 授業形態 | 講義演習 |
| 担当講師 | 玉榮智仁 | 授業科目名 | 数的推理 I |
| 単位数 | 4 | 時間数 | 60 |
| 受講生の到達目標 | 講義範囲内の問題において7割以上の正答を目指す。 | | |
| 授業概要 | <p>数的推理は、中学から高校までの数学の公式に当てはめるだけでは解けない問題が数多く出題されます。例えば、速度や距離の問題では線分図を用いて解答につなげる前の過程をきちんと理解する必要があります。そのため、小学校で学習する範囲も取り入れながら解答能力を養っていく。</p> | | |
| 授業計画 | 4月 | 数の性質、最少公倍数、最大公約数を使用した問題の解法 | |
| | 5月 | 和差算、過不足算、仕事算、速度の問題を線分図を利用した解法 | |
| | 6月 | 規則性、場合の数、組合せの解法 | |
| | 7月 | 図形の解法 | |
| | 8月 | 夏期講習(まとめ) | |
| | 9月 | 直前演習 | |
| | 10月 | | |
| | 11月 | | |
| | 12月 | | |
| | 1月 | | |
| | 2月 | | |
| | 3月 | | |
| 成績評価の方法 | <p>科目評価は模擬試験や随時行われる確認テストを100点満点に換算し、以下4段階で評価する。優・・・100～85点、良・・・84～70点、可・・・69～55点、不可・・・54点以下。また出席率、授業態度、提出物に問題がある場合は換算した点数から減算し評価を決定する。</p> | | |
| 使用テキスト及び参考図書 | 中学入試出る順過去問算数文章題、図形題(旺文社) | | |
| | スーパー過去問題集(実務出版) | | |
| 学生へのメッセージ | <p>公務試験において、数的推理の問題数は、6、7問とかなりウェイトが高い科目である。まず、基本的な確認をしながら出題率が高い分野を重点的に学習していく。また、実際の試験で力を発揮できるように、わかるからできるというところを目指し指導していきたい。</p> | | |

平成 31 年度 授業計画(シラバス)

| | | | |
|------------------|---|----------------|-------|
| 開講時期 | 1年次後期 | 科目区分 | 専門科目 |
| 学科名 | 公務員専攻科 | 授業形態 | 講義演習 |
| 担当講師 | 玉榮智仁 | 授業科目名 | 数的推理Ⅱ |
| 単位数 | 4 | 時間数 | 60 |
| 受講生の到達目標 | 講義範囲内の問題において7割以上の正答を目指す。 | | |
| 授業概要 | 数的推理Ⅱは、次年度試験に向けて、数的推理Ⅰで学んだ分野をより速く解答まで導けるよう、公務員試験独自の解法を身に付け、時間を意識しながら学習していく。 | | |
| 授業計画 | 4月 | | |
| | 5月 | | |
| | 6月 | | |
| | 7月 | | |
| | 8月 | | |
| | 9月 | | |
| | 10月 | いろいろな図形の面積の求め方 | |
| | 11月 | 相似比を利用した問題の解法 | |
| | 12月 | 図形問題の総合演習 | |
| | 1月 | 問題分から線分図作成演習 | |
| | 2月 | 問題分から線分図作成演習 | |
| | 3月 | 1年間の総合演習 | |
| 成績評価の方法 | 科目評価は模擬試験や随時行われる確認テストを100点満点に換算し、以下4段階で評価する。 優・・・100～85点、良・・・84～70点、可・・・69～55点、不可・・・54点以下。 また出席率、授業態度、提出物に問題がある場合は換算した点数から減算し評価を決定する。 | | |
| 使用テキスト 及び参考図書 | 中学入試出る順過去問算数文章題、図形題(旺文社) | | |
| | スーパー過去問題集(実務出版) | | |
| 学生への メッセージ | この時期は、次年度の試験にむけて、基本的事項の再確認や、図形問題の解法や問題分を式まででつなげる線分図の作成に重点を置き、答えを早く正確に出せるように、どこまででき、どこからわからないを見つけ何度も繰り返すことによって力をつけてほしい。 | | |